

様式3 指定管理業務 事業評価書（市及び指定管理者作成）

令和元年度 指定管理業務 事業評価書

施設名	幸手市民文化体育館(アスカル幸手)
施設所管課	教育部教育委員会 社会教育課（内線644）
指定管理者名	NEM/NTTファシリティーズ共同事業体
指定期間	平成31年4月1日～令和6年3月31日（1年目）

評価項目		評価基準	自己評価	所管課評価
I 履行の 確認	1 施設全般管理運営に関する業務			
	(1)職員体制	基準に基づき、適正な人員配置がなされたか	3	3
	(2)職員研修	業務に必要な研修・教育が適切に行われたか	3	3
	(3)利用の促進	利用者拡大のための利用促進業務が適切に行われたか	4	3
	2 施設利用に関する業務			
	(1)利用状況	利用者数・稼働率等は、適正な水準であるか	3	3
	(2)利用料金	利用料金の設定、徴収・減免・還付の手続きは適切であるか	3	3
	3 保守点検並びに清掃等業務等			
	(1)保守点検業務	基準に基づき、保守点検が適切に行われたか	3	3
	(2)清掃・維持管理業務	基準に基づき、清掃業務・維持管理業務が適切に行われたか	3	3
	(3)保安・警備業務	基準に基づき、保安・警備業務が適切に行われたか	3	3
	(4)修繕業務	基準に基づき、修繕業務が適切に行われたか	3	3
	4 事業の実施に関する業務			
	(1)指定業務	基準に基づく指定業務が適切に行われたか	3	3
	(2)自主事業	基準に基づく自主事業が適切に行われたか	4	3
	5 個人情報の取扱い	個人情報の取り扱いが適正に行われたか	3	3
	6 管理目標	設定目標に対する結果は妥当であるか	2	2
	7 緊急対応	事故、災害等の緊急時の連絡体制が確保されているか 緊急時のマニュアルが整備され、定期的に訓練等を行っているか	3	3
	8 その他			
	(1)記録管理	業務日誌や点検・修繕等の履歴を適切に整備・保管しているか	3	3
	(2)経理	経理処理が適切に行われたか	3	3
	(3)意思疎通	市や関係機関との連携が適正に行われているか	3	3

評価項目		評価基準	自己評価	所管課評価
Ⅱサービスの質の評価	1 利用者満足度	利用者アンケート等を実施し、その結果は妥当であるか	3	3
	2 維持管理業務	日常清掃業務や衛生管理は適正であるか 備品などの設備の維持管理は適正であるか	3	3
	3 運営業務	備品の貸出状況や消耗品等の補充状況は適切であるか 利用許可など利用者への接客対応は適切であるか	4	3
	4 指定事業・自主事業			
	(1)指定事業	実施された事業内容は、質の高いものであったか	4	3
	(2)自主事業	実施された事業内容は、質の高いものであったか	4	3

評価項目		評価基準	自己評価	所管課評価
Ⅲ安定性の評価	1 事業収支	事業収支は妥当であるか	3	3
	2 経営状況分析指標	経営状況分析指標の結果は妥当であるか	3	3
	3 団体等の経営状況	団体等の経営状況分析指標の結果は妥当であるか	3	3
合計得点		I・Ⅱ・Ⅲの評価点数の合計(得点／満点)	79 100	74 100

総括	指定管理者の自己評価	本年度はコロナウイルスの影響による3月14日からの休館により、昨年度との比較が若干難しくあるという状況ではありますが、利用件数は対前年同時期比で10,746件減(前年比88.7%)、利用料金は1,642,570円減(前年比95%)、利用人数は、11,933人減(前年比95.3%)の結果となりました。特にトレーニング室が3月5日から休館したことが主な要因でトレーニング室利用者が10,148人減ったためです。また、新たにできた近隣民間営業のトレーニングルームへ筋力系ヘビーユーザーが流出したこと、メインアリーナでの全面大会利用や練習利用が昨年度より減少したことが挙げられ、収支に大きく影響を及ぼしました。他にも石川さゆり、細川たかし公演など、大規模公演を行ったことで、事業費が大幅に上がったことが挙げられます。 基幹施設であるトレーニング室の利用者減を食い止める対策として、新たにヘビーユーザー向けの「ナイトパスポート」や、高齢者でも気軽にトレーニングができる「ボディスパイダー」を導入するなどの取組を行いました。 次年度以降はさらにお客様サービスを強化し、利用者増による収益確保と効率的な管理運営により支出削減に努めてまいります。
	施設所管課の評価	協定の基準を遵守し、良好な管理運営を行っている。 施設管理においては、計画的に保守点検を実施し、必要に応じ適切に修繕を行っている。経年劣化による施設の不具合についてもその都度必要な対応をとっていた。利用状況については、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から施設を休館としたことによる影響が大きく、前年比でマイナスに転じている。また、周囲のトレーニング施設などの情報を収集し、利用者ニーズに柔軟に対応できるよう戦略を練っており、評価できる。また、自主事業についても、多種多様に展開していた。新たな試みでイリュージョン・マジックショーを開催し、新たな層に満足いただけたようで、前向きな事業展開も評価できる点である。 しかしながら、施設利用者数が平成29年度をピークに減少傾向にあり、年度計画の数値を大きく下回る実績になった点については、管理目標の達成に影響していると考えられるため、次年度以降の課題と言える。

総合評価	区 分	B
	特記事項	

《評価区分》

評価点数	4	協定書等の基準を遵守し、その水準よりも優れた内容である
	3	協定書等の基準を遵守し、その水準に概ね沿った内容である
	2	協定書等の基準を遵守しているが、内容の一部に課題がある
	1	協定書等の基準を遵守しておらず、改善の必要な内容である
総合評価	S	極めて良好に施設を管理している。(評価点数がすべて3以上であり、かつ4が2つ以上である)
	A	良好に施設を管理している。(評価点数がすべて3以上である)(上記以外)
	B	概ね適正に施設を管理しているが、内容の一部に課題がある。(評価点数に2が含まれている)
	C	改善を要する管理運営状況である。(評価点数に1が含まれている)